



財政危機宣言の中、「えーっ、こんなものまで削減!？」

「実相」をお伝えし、改善を求めていくことに..

原市政が削減している「こんなものまで」とは..

防犯灯の電気代、米寿の祝い、敬老会の補助金等の削減

私がこの問題を探り上げて追及したのは一年前の決算委員会。「少しは改善されたのかな」と思っていたんですが、ますます悪くなるものもこのニュースを皮切りに、市民のみなさんに「実相」をお伝えし、改めて改善を求めていくことにしました。

防犯灯の電気代

町内財政が苦しい

以前のように全額補助を

近隣の町内会から「最近、防犯灯の電気代を、市が全額補助してくれないので困っている。町内会の運営が苦しい。以前のように全額補助してほしい」という要望が寄せられましたので、一年前の決算委員会で「この声」を紹介し、改善を求めました。



防犯灯

旧同和地区の防犯灯は

修繕、電気代は市が全額負担

「特別」の同和对策事業が廃止されてから十年程になりますが、その当時、議会で議論されていたのが

安心・安全の街づくりに

せめて電気代は全額補助を

毎年減り続ける

「防犯灯の電気代補助」

「これでは設置すればするほど、町内会の財政が苦しくなり、活動に支障をきたす」ことになってしまいます。

電気代以外の修繕費などは、町内会

が負担しているんですから、せめて

電気代は全額補助し、「安心・安全な街づくり」をすすめるべきです。

「米寿のお祝い」

米寿(八十八歳)のお祝いが

「お祝い物券」..これだけの??

「米寿のお祝いにと、市からお祝い物券をくれたんですが、足腰が弱っていて、買い物に行けない」こんな声が、私のところにも届いています。

徳島市が米寿のお祝いに支給しているのが「JCBギ

毎年削減している 防犯灯の電気代

原市政が削減している電気代

百%補助していたのはH二十年

度まで、H二十一年度は九十六・二

四%(削減額百八万円)、H二十二

年度は九十四・六八%(削減額百

五十二万円)、H二十三年度は八十

七・六五%(削減額三百六十三万

円)、H二十四年

度は七十八・一四

% (削減額六百四

十九万円) 市の

予算からみれば

「重箱の隅をつつ



ているのが「JCBギ



JCBギフトカード



フトカード』 千円券十枚(一万円分)なんです、この千円券は「おつりをくれない」ので、「千円以上の買物をしていないと使えない」という不満の声も挙がっています。

原市政になってから

喜寿(七十七歳)の祝い廃止 現金をお買い物券に変えた

徳島市では、原市政が誕生する以前は、喜寿のお祝いに一万円、米寿のお祝いに一万五千元を現金で支給し、喜ばれていました。



原市政は、その現金支給を「お買い物券」に変えてしまい、続いて、喜寿の祝い金を廃止。そして米寿の祝い額も一万円に削減してしまいました。

他都市では金額も多く

現金支給が当たり前

四国では高松市が米寿二万円、喜寿一万円を現金支給。松山市が米寿三万円を現金支給しています。

徳島県内では阿南市が米寿一万五千円、喜寿八千円を現金支給。吉野川市・美馬市・三好市・阿波市が米寿一万円、喜寿五千円を現金支給。お買い物券の支給は、徳島市と鳴

門市だけという状況です。

長生きを喜び合える市政に

その第一歩として

喜寿・米寿祝いの改善を

原市政になってから、「えーっ、こんなものまで削減？」と驚くようなことがいくつもありましたが、その代表格が「喜寿・米寿祝い」の削減です。

「長生きを喜び合える」そんな徳島市政づくりをすべきです。その第一歩として、他都市のように現金支給にし、喜寿の祝い金を復活させ、米寿の祝い金を増額すべきです。

敬老会の補助金

毎年違う、地区ごとに違う

徳島市内の「敬老」年齢

「敬老会って何歳から？」 敬老の日前後によく聞かれる「質問」ですが、答えに窮します。徳島市の場合、「敬老の年齢」が毎年違い、また地区によつてマチマチだからです。例えば沖洲地区の場合、H十五年度七十五歳以上でしたが、H十八年度七十六歳以上、H十九年度七十七歳以上、H二十年度七十八歳以上



H二十三年度から七十九歳以上と変わっています。

市は七十五歳以上対象に補助

しかし補助金削減でマチマチに

徳島市は「七十五歳以上の高齢者を対象に、敬老会開催費に補助」していますが、その補助金を削減しているため、マチマチになっている次第です。

昨年の決算委員会で、いくら増額すれば、全地区で七十五歳以上を対象に敬老会が開けるのか？と質問しましたら、「二百二十六万円」と答弁市の予算からみれば「重箱の隅をつついたようなわずかな額」 十分な削減は止めるべきです。

一高い(県庁所在都市で所得に占める保険料の割合)国保料を市民に押しつけています。

「お金がないから」なのに、

新町西再開発を強引に推進

市民に「痛みやガマン」を強いる原市政の財政危機宣言。しかし、その一方で、百五十四億円(市民負担百二十五億円)も

の新町西再開発を強引に推進する原市政。まさに「ま

やかしの財政危機宣言」です。



原市政が行う「まやかしの財政危機宣言」

市民に「痛みやガマン」…その一方で新町西再開発

原市政の誕生と同時に出したのが財政危機宣言。この宣言が、如何に「まやかし」であるか。この約九年間で、その「真相」が明らかになっています。

「お金がないから」と、

暮らしの予算を毎年削減

財政危機宣言を出してから約九年間になります、ずっと行っているのがマイナスシリング：前

「お金がないから」と、

全国一高い国保料を押しつけ

また、「お金がないから」と、原市政になってわずか九年ほどの間に、国保料を三回も値上げし、全国